朝鮮日報

紀元二千五百六十五年
韓國光武九年
陰暦十二月二十二日

定價 壹ヶ月 金參拾錢 [illegible]
廣告 五號活字十九字詰 一行 金拾錢 三日以上 金七錢 五日以上 金五錢 特別 [illegible]
發行兼編輯人 [illegible] 印刷人 [illegible]
韓國釜山港大廳町二十七番地 發行所 朝鮮日報社

釜山鐵道 列車發着時刻表 [illegible]

公開状

黒潮子に與ふ (上)

濱村生

[illegible]世を[illegible]にする者は徒らに、[illegible]を弄ぶる[illegible]とは云ふもの恰も貴社の社員諸君が社會の公益[illegible]から、市井の瑣事に至る迄筆にしまする、以上の旨を祈つたもの、是でも[illegible]之を容れ玉へよ決して[illegible]ならば[illegible]でも知らせぬ也、營業廣告も[illegible]なり、宜しきかや

上[illegible]足下、足下は當地に於て新聞界[illegible]長田秋濤著述の[illegible]同會を稱すや、天下の名士多くは黒龍會の[illegible]入社が一言一行異様なるもの、收めて悉く此皆にあるを知らざるか、蓋し足下は黒龍會の一傑也。

朝鮮日報に於ける主筆黒潮子としての抱負、漸く其端緒を漏らさんとす、即ち社長[illegible]其人に知られてより、況んや萬生、社長とは行動を共にし、旗幟を同じくしたる黒龍會員の人なるをや、良禽果して良樹を得たるか、良樹果して良禽を得たるか、鄰國の經營前途遼遠、須らく今後に於て徴すべき也。

足下を知るもの曰く、長崎に於ける九州日の出の黒潮なり、鈴木天眼の黒潮なりと、何ぞ夫れ知己の多きや、筆を下せば天下經綸の策を講じ、吟ずれば詩となり、美文韻文又立ちどころに成りて、日本派の俳句は實に九州に於て卒先し、語學は英、清、露に渉る、假りに通譯として職に在らんか、單に此一事にして足下の右に出づるもれなかるべし

嘗に雜誌太陽に太平洋に、隨筆紀行文等、大坂每日新聞に、飜譯小説の一篇を讀むを得たり、何ぞ何ぞ夫れ斯の如く多方面に多藝多能なるや、又況んや繪畫を能くするの點に於てをや、新聞記者としての黒潮、黒潮としての新聞記者、實に稀に見る所の奇才也

然れども足下一の瑕瑾あり、唯我輩才能を恃むに在り、ナニ何時にても月俸に米の飯と、此一片の意氣や、終に數多の書生を養ひ、累は一身に[illegible]、已れの顧せざるところ、甘んじて之れを受けざるを得ざるおとあるに非ずや、今[illegible]惜しむべからず、人材[illegible]を叩て先生願ひとい[illegible]の為せる所善か不善か、[illegible]所以の結果、往々黒潮[illegible]て、或は名を汚され[illegible]氏言をなし足下[illegible]使者も、發見が為に誤たれたるとなきか惜むし[illegible]妄りに人に哀を請ふ[illegible]武士は喰はねど高楊枝[illegible]の士[illegible]を知り恩を知れり、足下將來を想ふべきあり(未完)

朝鮮狩獵案内 (四)

美絆公

(四)靈山郡[illegible]沼　[illegible]を離れて、西へ行くこと三里に位置す、此沼は周回約二里近くもあらう、邊の枯葉と言葦の叢生して居る間に群游して居る、鴨が無數である、雁や青鷺も多少は居る、されど其西南面一帶に連れる畠地へ出れば鴈雁の群が更に多い、畠地は停車場からの距離が少し隔つて居るから、出獵には一夜泊りの覺悟を要する、朝列車で立てば停車場を發して一時頃には同處へ着かれる、それから夕方近く狩り暮らし、翌朝早起今一回其要所を巡り、途中打ちながら歸途に就き、午後五時二十五分の發車時間迄に三浪津へ着く事にしたならば、撤軍下八では、重過ぎる位の獲物があるであらう、但し此途中には鵠も多いから、御望とならば其丸も用意して行き給へ

參考　此邊には韓人酒幕無し、故に近村の主なる韓家に泊り込むべき方法を講ずるの必要あり

(五)靈山郡上浦　三浪津から八里、洛東江の上流北岸、馬山浦から陸路五里の北に當つて居る、此附近には、洛東江岸及び畠地には雁及び鵠の類が、水田及び沼澤には[illegible]して居る、朝暮の白鳥、鶴の類が去來する狀、天を掩ひ地を蔽ろかすと云ふ有様で、鳥群の驚多なると、戰線の廣きとは、盖し是れを此附近第一に置かねばならぬ、實は先年來佐賀縣の獵師共が實に潜伏して居るは此所で、又た岡人等が、一發ずつで鶴二十六羽、鷺三十七羽を打ち落したと云ふも實は此所である

此所への出獵には、馬山浦からの方が便利であるけれども三浪津からでも途草を喰はねば一日で伸びり着かれる、又た途中[illegible]沼の近傍迄陸路を打ちつゝ行くも一興であらう、到着時間が早くて元氣も疲れぬとならば、一奮發して畠面に夕餉求めの雁を打つも宜からう、翌朝も早起して打つ[illegible]するなど第三日間も此附近に遊り暮したならば、其れこそ撤軍はおろか一頭位の馬では見てる運びは切れまい

參考　上浦は洛東江岸著名の渡津場、馬山大邱間の要路に當り、人家百戸内外、中に酒幕十餘月、毎月六回の開市あり、米穀の產所として商業稍々殷賑なり

(六)慶山　若しを過ぎて慶山停車場に着く、汽車を降りて其東北方を見渡せば、廣漠たる原野が遙く永川の方へ擴がつて居る、此邊の畠地には鵝、黒、鍋、雁、鴨で、其數亦た頗る多い、が其群は此地から河陽を經て永川の方へ進めば進む程益々多くなる、又た此邊は山田、畠地、多少の小丘や、林など錯雜して、之れに琴湖江の上流が蜿蜒して居るから、忍び寄るには屈強の地形が多い

此場所も亦た二泊若くは三泊位は、宜しく腰を据ゑべき所であらう、宿は慶山か或は一二里進んで、永川、大邱間の街道へ出で泊るか、それは勝手たるべし、ではあるが、みつしり獵らうとするには後者に限る

參考　慶山邑は郡衙の所在地、戸數二百餘開市五、十番日毎月六回、住民の生計農を主とす、京釜鐵道開通の上には、地形上郡内は勿論、慈仁、河陽、新寧、永川、慶州方面の產穀は概ね此處よりつて搬出せらるゝならん

(七)清道　同停車場から西北方へ行くおと二十餘町で清道邑に出る、尚ほ其處から西北を見渡すと、田畠が稍々廣く東南から北西へと延びて居る、此處にも雁鴨が可なりに居る、黒鶴も多少は居る、尚ほ邑から半里許りの北、陽院へ至る少し手前の路傍にある周圍十余町の沼の附近には其群が何時も居る

此場の出獵には、先づ第一に此沼を指し、更らに西方の畠地へ向ふべしである、兎に角是れも釜山出發後二泊はあきらめねばなるまい、宿しるには、停車場前には日本旅店がある、けれど充分やらうとするならば、初晩は陽院邊で、二晩目に停車場前の之れへ來て泊り、第三日の朝一番列車で歸る事にしたならば、列車内を羨ませるだけの獲物はあるであらう

朝鮮稗史 林慶業の傳 (四)

浪嶋生 譯

時しも頃は乙丑年二月胡國より南京に向つて朝貢せんとしたるに其頃胡國馬亂を起し胡國之れと戰ふて屢々其破る所となり將に亡滅に瀕んとし危殆旦夕に迫るを以て急使を朝せ援兵を朝鮮王に乞ひ來る茲に於て朝鮮百官朝議を凝し其援兵に將たるべきものを選ぶに先ず都元帥黃子命席を進め奏して曰く小臣等胡國敗衂の狀を考ふるに誠に將帥其人を得ざるに因るに外ならずされば今回救援の軍勢に將たらん者には智勇兼備して國威を千里の外に發揚するに足るの名將を得るの必要あり臣其人を思ふに朝鮮の上使軍官林慶業は匹夫不當の勇を具へ智略人に過ぐるの驍將なれば宜しく此人を撰んで征討元帥の任に當らしむべし其大勳を四表に樹て威風を三國に發揚するおと恐らくは火を睹るよりも明かなるものあらん伏して希くは陛下迷ふ事なく之を召し大命を下し賜はらんおとど皇帝之れを聞き叡外の人を推薦するを怪まれ彼は固と微賤を犯して他國に使ひしたるもの之れを以て戰場に派するは懼として忍びざる所なりと肯ありければ都元帥更に奏して大國の難一小私情を顧慮し玉ふの秋にあらず若し夫れ臣が伏奏する所にして陛下の御信任を給はらざるあるが如きに至つては臣に復た何の奏する所ぞ知らざるなりと切奏しければ皇帝茲に其議を容れさせ玉ひ即日使を遣はして慶業及び李上使を引見せらるゝ事とはなりぬ

譯者曰く、大明皇帝隣國に救護軍を派遣するが為めに適任の將師を求むるに當つてこれを臣下聞より撰ばずして外國使臣の中より採りたるは他國に對して明廷に一人の將亂に耐ふるの名將なきを表白するの理ざなる是れ實に國家の大恥辱にして明廷としては執るべからざるの態度なるに拘はらず韓人此種の消息を平氣に序し去るを怪しまず是を韓人得意の筆となす

慶業此に於て皇帝の召に應じ李上使に隨ふて入闕謁見を賜はる皇帝の曰く方今胡國隣國の犯す所となり存亡實に旦夕に迫れるの故を以て援軍を王師に乞ふ事早天雲霓を待つが如く急使櫛次す朕一たびこれを聞きて傍觀に忍ひず依て大軍を發して救援の勢に當らしめんと欲す然るに今將帥其人を得んが為めに百方廷議を凝したるに幸に貴國軍官林慶業の最も適材たるを知り得たり依て同人を勞し一舉亂賊討平の勢に就かしめんこと是れ朕が希望するところのもの願くは貴官幸に之れを慶業に諭られん事をさ

雜報

波艦隊の行動に就て

歐露其他の情報によれば亞弗利加の東岸マダガスカルに碇留せしロヂエストウエンスキーの本艦隊と離きにヂブチーを出發せしセレフエルケルサムの率ゆる枝艦隊とは孰れもマダガスカルに於て合同したるものゝ如し、ヂブチーとマダガスカルのデーゴシユアレ灣とは約千九百四十浬あり、艦士運搬の枝艦隊がヂブチーを出發せし後其の行先分明ならざりしは即ち本艦隊と合同せんが為めに南航したるものなるべく、然るに最新の電報に據れば又後發隊ボトロウオスキーの艦隊は既に蘇西を出發して東航しつゝあるがロヂエストウエンスキー提督は右後發艦隊の來着を俟たず本艦隊とフエルケルサム艦隊とを率ゐて東航し附近に於てボトロウオスキーの後發艦隊と合同すべしと云へりされはマダガスカル島邊にありし敵艦隊は兎に角更に其東航を繼續せんとするものゝ如くなるが其の後發隊と何地に於て合同せんとするかマルシウ列島附近ならば同列島はヂブチーを距る約一千八百八十浬の所にありて英國の領地なり然も歐電の如く愈ロヂエストウエンスキーは出發して其東航を繼續するか又何地に於て後發隊と合同せんとするかは遠からざる中に情報あるべきなり

小品文

變装の美人

あい子

今しも捕虜の撿疫所にて撿疫官は優しく問うた

貴許は婦人ではありませんか

ホクタノフは嵐と紅を漲らして

ハイ誠は少尉ニコライエピッチの妻です

撿疫官は此時容を正しうして

非戰員は捕虜の扱いが出來ません、貴女は是より御歸りなさい

ホクタノフは叫んだ

オウ情ある日本の將官よ妾が今日迄雨に打たれ風に曝され、千辛萬苦はみんな戀しきニコライエピッチに逢はんがため妾が心の切なさを哀れと思ふてしばし少尉の從卒として許されよ

少尉も聲をうるわして

我等を無理に引放たれなば我等は戀いて共に死なん許されずば殺してよ

少尉とホクタノヲは相擁して泣けり離れずと悲めり

撿疫官も物の哀れは知るものをされど斯て止むべくもあらざれば嚴然として

其所放たれよ

二人は首を振つて肯んせず石の如く相抱いて只ヒヒと泣けり

撿疫官も暫時吟味せしが[illegible]むやがて言葉を和げて

お身等の願は叶へて得させんさらば彼方に憩はれよ

二人は夢中ばかり打喜び幾度か盈る、感謝を神に捧げていざて去りぬ

あはれなる年少の士官と可憐の處女よお身等の願はざる事ながら吾は國法に背くを何とせん日本の軍人は情知らぬにわらねども法に背かすサラバ二人よ

撿疫官は斯く獨語して士官と少女を友に捨せしめさかくて少女は佛國の領事に引渡されたり

一念巖の如く堅く然れ海山万里知らぬ異國に漂流いて此状野邊血腥き戰場暮うる夫のあればこそ無理なき日本の武夫よ如何に聞を隔つとも妾は去なす歸らさるべし假令此儘野山に骨を埋むとも

松山の捕虜收容所の傍近く月黒き夕雨降れる朝容顔花の如き美人が會話の一卷を手にして今も猶佇立し流涕しあると聞く

俳句

船 (春季結)

紙折りて船を作りぬ春の宵　八重
尙寒き春を嘲ちぬ船の旅　同
大船の進水式や春の海　玄董
楊柳や繋ける船に棚引し　同
桃櫻竹屋の渡し春の宵　其昌
引揚げし沈没船や春日さす　同
春の雲雲ある方や鯨船　飛雪
船虫のしたゝか群れて春の濱　同

溪村子に贈る

父ありと指す船や春塞し　黒潮
春の潮片帆の船の歸りけり　同

(春の句を募る)

飜譯・小説

佛蘭西騎兵の花 (七)

英國 コーナンドイル 作
日本 梅村隱士 譯

幽鬱城の探險(つゞき)

門番の男は斯くて男爵の居間へ案内をするから二人は濕い石疊みの廊下を跟て行くと其處此其に野獸の毛皮が取り散らしてあり壁には其頭が飾つてある、其遙か先の行當つた處で門番は一室の扉を開いたから二人は其後に從ふた。

此は小さい室で今迄通つて來た處で見た樣に矢張りだらしなく取り散らしてある、壁には色の褪めた紙が粘つてあつて其破れから石の壁が見へてゐる、其室から次の間に通ふ處には幕が下げてあつて二人の正面に當つてゐる、其中間に四角の卓が置いてあつて汚れた皿や食物の喰ひ殘しが取り散らしてある、酒瓶が幾本か其側に轉がつて。其正面には二人に向ふて橙子色の頭髮を房々と垂して獅子の樣な首を持つてゐる大男が座つてゐる、其鬚髯も又同樣に光りのある橙子色なのであつた。

世良田は今迄隨分人相の惡い者を見たけれども此男の樣な野卑なのを見たとは無つた其細い殘惡な瞬眼と白く皺の寄つた頬と厚い唇が大きな顏より外に突出て下つてゐるふ人相であるから。

『お前さん達は若いのには大膽な人だね』

と彼は嘲ける如く話しかけて。

『近來の巴里の模樣は如うだね、ゑゝ、お前さん方は波蘭土を獨立させてやらうと思つて行くんだね、人に獨立をさせてやらうと思つて自分にはその奴隸になつてゐる譯だな三角の帽子を冠つて灰色の上衣を着てゐる小さい貴族主義の男のさ、今では巴里にはもう市民と云ふものが無くなつて皆貴族と貴夫人計りになつてると聞いだが、飄談ぢやない、も少し肩籠の中に入の首を押込まなくちや駄目だよ』

龍野は言葉なくて大男の側近く進みより

『久良井傳藏』

と叫んだ、男爵は驚いて飛上り酒の醉も一時に醒めはてたる樣子である。

『久良井傳藏』

と龍野が再び呼びかけたので彼は椅子の腕かけを兩手に掴んで立ち上らんとした。

『おい若いの、お前さんは其名前を二度も云つてきうせうと云んだ』

龍野『久良井傳藏、貴樣は自分が長い間探して居た奴だ』

男爵『已が以前にそんな名前であつたにしろ其時分お前さんはまだ小供であつたのに何の關係があると云ふんだい』

龍野『自分は龍野だ』

男爵『彼れの息子ぢやあるまいね……』

龍野『貴樣が殺した者の子だ』

男爵は笑出さんと力めたらしかつたが、其眼中には恐怖の色が明らかに見へてゐる。

男爵『昔しの事は昔しの事さね、どうせ命の取りやりだもの貴樣と人民の間にさ、お前さんのお父さんはジロンド黨ぢやつたよ、自分は山嶽黨さ、自分共の味方も大分殺されたんだ、それは戰爭の時の運さ、うんな事は忘れて了つてもう御同様よ仲直りして幸福な生活をしやうぢやないかね』

男爵は斯く云びながら其赤い筋立ちたる手を差出して握手せんとした。

『それで澤山だ』

と龍野は耐へず呼び出して。

『貴樣が其椅子に座つてゐる處を此劍で以て突き殺しても當り前の事だ而しさうしては我劍の汚れだそれでも貴樣は佛蘭西人だらう、兵隊にも出て居たさうだ、起て、起つて尋常の勝負せろ』

男爵『好し好し、それが望みなら……

龍野は最早耐へ得ぬのであつて双手を擴げて男爵の橙子色の下鬚をぴつと掴んだ、其時世良田の眼には男爵の二つの輝いたる眼と血汐に染んだ唇が見ゐた。

男爵『是丈けて貴樣の命は貰つたぞ』

龍野『うむ、其の方が好い』

男爵『已は劍を持つて來る、暫くは待たせない』

外部男爵の久良井傳藏は斯くて次の間に這んで行つた。

朝鮮日報

門司特報

二十三日　本社特派員發

◎敵騎我が包圍に陷る

本日當地に歸來せし某將校の談に牛莊方面に逆襲し來りたる敵兵は孰れも騎砲兵三千余にして砲十二門を有し牛莊に於て我守備兵百余名を驅逐し勢に乘じて我站門兵站線に突入せんとす、此時兵站司令官宮崎中佐は守備隊を區署し牛家屯に防禦工事を施して潜伏せしめ置き且つ故らに倉庫附近に秣を堆積して之に火を放ち我軍退去したるもの丶如く裝ひしに敵兵は此戰略に欺かれ直に市街に突喊せん變動を執り各々先を爭ふて亂入し來りしを我兵は巧みに其の優勢なる敵を百米突乃至百五十米突の近距離に引附け防禦線内より一齊射擊を開始し猛烈に突擊を行ひたれば敵は我の不意打ちに避易して遂に牛莊の左側方面を迂回し後方に潰走したるが我救援軍立見兵團の三個大隊及び遼陽駐屯の淺川聯隊の一個大隊は時を移さず其の敵を追擊し三岔河附近に於て第二擊を加へ更に逃ぐるを追ふて老都牛椽方面に於て其の救援軍の爲めに挾擊せられ今や其の騎兵約三千は哀れ囊中の鼠の狀態に陷りたり

其の敵は素より奇襲を目的としたるものなれば彈藥縱列の後續部隊を有せず數回の戰鬪に携帶彈藥は悉く擊ち盡して今や殆んど戰鬪力を有せざるに等しきを以て最早多大の損害を被むりても逸出を試るのみなるか但し降伏する外途なき有樣に陷り居れり斯の如くなるを以て我軍よりは彼等に對して勸降書を送りたりとの說さへ傳はりたる程なりし、而して敵の主力は其數約一個師團の兵を双臺子附近に停め居るも我救援軍の優勢なるに驚き包圍を救ふ可き行動を爲さゞるもの丶如し

其の敵が斯かる大膽なる擧を企てたるは決して一朝一夕の事にあらず昨年十二月に於て我右翼隊前面の敵は盛に其兵力を增加し日々砲擊を加へ其主力の存在するが如くに裝ひ以て我軍を牽制し尙ほ左翼隊前面の敵は敗露新來の兵交代するの狀を示したりしが畢竟之れ我を欺く爲めの計畫にして敗露の兵と交代したる彼等は先づ新民屯に出で此處より遼西(中立地)を侵して牛莊西方の渡津場より遼河を横ぎりて我兵站線を襲ひたりしものなり其當時の情報によれば露騎兵約三千、步騎砲兵を合せし後續部隊約二万、馱馬七百輛を有し居たりと

附記　本社今般門司に特派員を設きたれば戰局の報道は尤も詳細に且つ敏速に之を寄せんとす是れ我社が東京大阪の各新聞よりも報道の迅速を期す所以の設備の一なり讀者乞ふ諒とせよ

東京電報

●東鄕大將の歸任

(二十六日午後一時三十五分發　四時十五分本社着)

〇東鄕大將來月一日當地發歸任の途に就く

●露國に大謀叛起れり

(二十六日午後三時三拾分發　五時拾五分本社着)

〇倫敦發の報によれば露國の騷亂は驚くべき速度にて傳播し國内大都府の秩序破壞せられ波蘭、フィンランドにても反逆敵對運動起れり形勢の變計るべからず

●苦將軍の悲境(上)

(全)

〇露都にてはクロパトキンより要求せる軍需品の發送に困難を感じ居れり

●西比利亞鐵道の破壞(上)

(全)

〇西比利亞鐵道貳十哩破壞せられたりとの說あり

雜報

◎千葉縣漁業移住者の消息　過般當港を出發馬山浦に向ひたる同縣漁業移住の先發者たる吉野文吉正木保太郞外五名の一行は同地理事廳との交涉整ひ居留地區域内の一部分を借り受け之れに居所を構ふる事となりたる旨水產組合へ通知ありたり又た之れが後續者として十戶程を移住せしむる筈なるが之れ亦遠からず渡韓の筈なりと云ふ

◎鯨の拾得　去る二十四日巨濟島沖合に鯨の死骸浮流し居たるを岡山縣サハラ流網漁船某之れを收得し一昨日當港に曳き歸り同日海關の手續を濟したる上解剖に附し爲めに望外の利益を得たりと云ふ

●牛乳か―豆乳か―スープか―(競爭漸く熾んならんとす)

昨紙記載の如く豆乳派か牛乳の衞生上に於ける弊害を說くと共に自家の廣告を大々的吹聽したるより茲に牛乳軍の憤怒一方ならず豆乳の大聞でも云ひ得べき牛乳に對して云々とは迂散の極商業家として道徳の甚だしきものなりとて近々同業者等首を鳩めて之れが防戰の準備を爲すと共に一大逆襲を試みん準備さへあるなど傳へられつゝあるがスープ軍は又此機に乘じて中間に勢力を張らんものをと官衙會社商店の嫌ひなく見本を寄贈する都合なり

混戰漸く人目を惹かんとしつゝあり牛乳軍は赤スープ軍撲滅を謀らん計畫にて若辛中なりとも傳へられつゝあり兎にも角にも茲暫らくは仲々の見ものなるべし

釜山雜事

●埋築地新町命名の由來(附記新町各別の坪數)

埋築地新町命名の事は昨紙既報の通りなるが今其の由來を聞くに佐藤町は會社取締役理事佐藤潤象氏の功勞を永久に紀念するの意に出たる者にして大倉町は會長大倉喜八郞氏岸本町は同上取締役技師長岸本順吉氏高島町は仝上取締役高島鞆之助氏池の町は仝上技師池田永吉氏の一字を冠せしもの仲の町は大倉土木組主任中山希賢氏か工事を引受けたるより出たる者京釜町は京釜鐵道所在地埋立新町は埋立地の總稱紀念に由來せる者なりといふ事業奬勵の爲よは好適の名稱といふべし猶各町の坪數を詳記すれは左の如し但△印は概算也

●佐藤町　三千貳百七拾六坪
●池の町　千九百六拾三坪五合
●埋立新町　△四千三百九拾坪五合
●大倉町　二千九百九拾二坪八合
●中の町　△千二百三拾五坪五合五勺
●岸本町　△二千七百八拾二坪三合勺
●高島町　千九百九拾二坪
●京釜町　△五千坪
計貳萬三千六百三拾二坪九合勺

●寫眞業者の無謀　朝鮮とさへ謂ば金儲が出來るものとの淺果敢なる欲謀心に驅られて渡韓するもの丶多きは頗る悲しむ可きなり而して渡韓するも深く内地に入りて韓人を敵手とする勇氣もなく當港に愚圖々々して旅費に窮するに至るとは愚の頂上と謂ふ可きなり殊に右の如き無謀なる渡韓者は寫眞師に多き統計を示し居れり是れ何故かといふに韓國は未だ未開地なりとの想像より文明的寫眞業の如きは尤も韓人と相手とし喝采を得るならんとの觀念を或は九州臺灣等に流浪し居れる同業者抔もわざ〳〵海を渉りて當港に來るが偖て渡韓して見ると居留地は既に豫想外に發達し居りて同業者の地盤固く然ればとて内地に入れば韓人の未開なる到底寫眞の如きに注意を拂ふものなきより其の地の同業者に懇願周旋方或は旅費の借用をなす者頗る多たる有樣なりと

●赤十字社總會に就て　例年の如く一二月の間に於て赤十字社總會を開會する筈なるが本年は都合に依り三月下旬に延期せらるべしといへり

●赤十字社加入　サストバル吉野しづの子は今回日本赤十字社に加入したり

●赤痢病患者數　當地赤痢病患者は一昨日迄一名よ減少したる處仝日一名の患者を出せるにより現在患者數は二名なりといふ

●居留民會　度々流會となりし居留民會は本日開會の筈也

●徵兵召集令と歸國者　本國よりの入營者にて昨今歸國するもの多き摸樣なり

●召集令と旅行者　當港寄留者にして旅行中に入營召集令に遭ひ出發期限等を遲延したる者は領事館に出頭其の證明を要すと

訪問記事

●野尻視學官を訪ふ

サ御通入なさい途中ですか大部難儀しましたな玄海灘は中々の荒れで定刻者より四時間も遲れて入港しました夫れに上陸の際はシケが繼續しまして三拾分も雨中で佇立するといふ始末でした道路も中々泥濘ましたな宿へ着きましたのは一時頃でしたろふ用向ですか、一寸六ヶ敷が要するに朝鮮は日本政府の方針ですか韓國の教育觀察ですが日本政府の方にて保護する以上は寺子教育の如き重要問題は充分研究して改善を必要とする時は無論斷行するに憚らないと思ひます私の意見ですか何れ視察の上ならねば何とも言へませんが多少考へもありますけれども今は言ふべき時機でないと思ひます一寸此の教育を見まして明日頃京城に參ります夫より仁川を視察し歸途大邱密陽大田扶桑其他重要の數ヶ所を調べまして又た歸り再び馬山浦元山方面にも參る都合ですが時日は許しますか知れませんが確答が出來ません當釜山小學校の事ですか樣先しまして氣の毒に存じます男女の區別に就ては内地でも種々學說ありますが要するに出來得るなら區別するを適當と信ずるのですた丶困難の事は二ヶ所の土地を得る事で通學の便、空氣の善惡土地附近の狀態、經費の如何等が先決問題でしやう二階造りの事も仲々八釜しく論ずるまでの者でなかろふと思ひます是も經費が許すなら平屋造りが善です日本造りの建築は三階は六ケ敷ですから二階造りでしやうか校長の選任ですか何れ相談はありますでせうけれども未だ内定して居ますまい併し發表前は秘密ですから何とも言ませんな、記者の問はホッ是丶盡たき斷くじて視察官は問を發してあなたは國井元校長を知つてますか、多く知らぬですか評判はドンナ者でしたろふ、切れ過る、成程左樣でしやうな夫んな事に聞いてました斯くて首肯する處あるが如くであつた記者は其の間によりて視察官の意見を窺知るを得たのである

●野尻視學官　野尻文部省視學官は韓國に於ける學校及び教育上の視察として一昨日來釜大池旅店に投宿されたり

●渡邊工兵大尉　陸軍工兵大尉渡邊象氏は昨日來港大池旅館に投宿さる

●大宮工兵少尉　陸軍工兵少尉大宮鐵雄氏仁川守備隊より本國隊附を命せられ歸省の途寄港大池旅館に投宿

慶尚道事情に關する釜山領事館の調査(つゞき)

一、晉州●　戶數一萬四千〇七十六戶、人口六万二千〇三十八人、田圓一万五千七百六十一結二十二負三束

一、星州●　戶數一万一千〇四十六戶、人口六萬七千〇五十三人、田圓一万一千七百二十七結十負一束

一、寧海●　戶數一万二千九百二十七戶、人口五萬二千六百二十四人、田圓一萬千〇六十四結七負五束

一、密陽●　戶數一萬二千九百五十六戶、人口五萬五千四百五十二結六負四束

一、善山●　戶數一萬〇二百四十九戶、人口四万八千三百五十二人、田圓八千八百九十七結五十五負七束

一、靑松●　戶數二千七百六十八戶、人口一万一千七百三十八人、田圓二千三百二十七結八十負九束

一、蔚山●　戶數一万〇二百九十六戶、人口三万七千三百六十八人、田圓八千六百二十五結二十一負二束

一、東萊●　戶數八千九百〇七戶、人口三萬二千二百八十三人、田圓三千二百二十七結十三負六束

一、巨濟●　戶數五千二百七十二戶、人口二万五千二百二十八人、田圓三千〇〇七結八十二負一束

一、居昌●　戶數六千六百二十一戶、人口二萬八千四百九十七人、田圓五千七百五十六結六負二束

一、河東●　戶數三千五百十一戶、人口一万五千四百七十四人、田圓四千〇十五結七十負九束

一、仁同●　戶數五千〇四十五戶、人口一萬九千九百十一人、田圓四千六百四十七結七十負九束

一、咸陽●　戶數四千七百三十七戶▲人口二万七百八十八人▲田圓三千九百十八結四十七負六束

一、陝川●　戶數四千二百拾四戶▲人口二万〇七百五十三人▲田圓四千三百七十六結七十三負五束

一、草溪●　戶數三千七百十五戶▲人口一万七千二百四十一人▲田圓三千六百三十一結九十三負三束

一、淸道●　戶數八千〇六十一戶▲人口二萬四千八百五十七人▲田圓五千五百三十七結十八負三束

一、永川●　戶數七千百八十二戶▲人口三万二千七百八十一人▲田圓八千二百九十三結六十五負四束

一、醴泉●　戶數一萬〇九百八十八戶▲人口四萬四千〇八人▲田圓七千三百二十七結二十三負一束

一、榮川●　戶數四千四百六十二戶▲人口二万六千二百二十人▲田圓三千二百〇七結八十八負二束

一、興海●　戶數三千二百七拾三戶▲人口一万二千五百十六人▲田圓二千六百五十二結六十四負五束

一、梁山●　戶數四千四百十四戶▲人口一万六千七百二十五人▲田圓八千六百八十九結六十四負二束

一、咸安●　戶數六千〇〇六戶▲人口三万三百六十二人▲田圓六千六百十三結七十三負四束

一、釜山●　戶數六千六百五十一戶▲人口二万七千四百六十八人▲田圓四千五百九十五結九十二負

一、豐基●　戶數二千六百六十戶▲人口一萬二千三百二十六人▲田圓二千二百二十結七束

一、昆陽●　戶數三千七百七十一戶▲一盈德戶數四千四百七十一戶▲人口一万六千九百三十三人▲田圓二千〇六十四結十四負五束

一、慶山●　戶數三千三百六十三戶▲人口一万四千五百五十五人▲田圓三千九百七十六結二十一負四束

一、固城●　戶數一万四千〇〇二戶▲人口四萬四千三百七十五人▲田圓六千二百四十結五十六負五束

一、義城●　戶數九千九百八拾一戶▲人口三万九千六百四拾一人▲田圓八千八百三拾結九拾九束

一、南海●　戶數四千九百三拾九戶▲人口二万三千五百七拾一人▲田圓二千九百三拾三結二拾五結三束

一、開寧●　戶數四千三百七拾七戶▲人口一萬六千四百七拾三人▲田圓三千八百四拾二結八拾五△四束

一、三嘉●　戶數三千〇六拾九戶▲人口一万六千三百拾八人▲田圓二千九百七拾九結三拾九負七束

一、宜寧●　戶數七千〇六百三拾一戶▲人口三萬一千六百拾九人▲田圓六千〇八拾六結三拾五負

一、河陽●　戶數千五百九拾五戶▲人口六千六百三拾二人▲田圓三千四百六拾七結八拾七四

一、龍宮●　戶數四千一百七拾一戶▲人口一萬九千五百拾一人▲田圓三千五百六拾六結三拾三負二束

一、淸河●　戶數二千一百拾二戶▲人口八千七百拾五人▲田圓千百七拾九結四拾二負三束

一、奉化●　戶數千六百二拾七戶▲人口八千六百二拾七人▲田圓千三百二拾五結六拾八負四束

一、彦陽●　戶數千三百〇六戶▲人口八千八百〇四人▲田圓二千九百二十八結九十三負六束

一、漆原●　戶數三千三百三十三戶▲人口一萬三千二百四十七人▲田圓二千六百十三結九拾負八束

一、眞寶●　戶數二千〇四十一戶▲人口一萬〇二百三十五人▲田圓千七百四十六結一負三束

一、聞慶●　戶數四千九百八十七戶▲人口一萬九千四百三十九人▲田圓二千三百〇二結六十負五束

一、咸昌●　戶數二千六百二十一戶▲人口一萬八百七十七人▲田圓二千七百四拾九結一負一束

一、知禮●　戶數二千五百七拾五戶▲人口一万二千四百五拾一人▲田圓千五百九拾九結八拾一負五束

一、安義●　戶數二千三百四拾一戶▲人口八千四百〇二人▲田圓三千七百拾四結九拾五負八束

一、高靈●　戶數二千七百二拾戶▲人口一萬一千三百五拾戶▲田圓一千八百八拾一結拾四負

●望月氏の馬山浦談　兩三日滯在一昨日歸釜しました馬山浦は大變の景氣です藝者は四十八程ありますが御茶引は一人もないそうです工夫が多く入り込んでますからな鐵道は最早竣工です馬砂泥といふ處も一ヶ所丈殘てるそうです前途有望の地には相違ないですがこの勢で急速の開發するや否やは疑はしいです云々

雲影過雁

▲露都の騷亂は恰も電の如く閃々各部に反映し刻々凄絕の光景を加ふ秋風一過して天地蕭寞凄々の聲は幽鬼の聲に似り

▲暫く彼等革命の聲に聞け曰く我等の運命は虐政に壓抑せられて奴隸と何ぞ擇ぶ處ぞ官僚政治は我等の命を奪ふ國賊の徒と

▲又曰　紛々交々頭上に疊り我等は何等意見の表明を得ず生て要なし寧ろ死するに若すと哀絕悲絕何等亡國的絕望の聲ぞや

▲又曰　今や我等に採ふ處は只二途あるのみ曰く自由曰く幸福然らざれば墳墓のみと只[illegible]あり是革命の起る所以に非すや

▲暴政　暴斷の時百事皆閉息而も一度暴徒起て全國呼應す滔天の惡は滔天の惡を以て酬ん殆い哉元兇を團統する奸佞の徒や

▲芬蘭　波蘭早くも對敵行動を初め叛旗を飜へせり彼素より暴威の下に憤激を抑ゆるもの國天の機は再び來らず何時なる哉

▲西比　利亞鐵道二十哩暴徒に破壞せられて黑麵麭の供給に困る飢死乎降伏乎無論後者ならば黑パンの用意は今より肝要

●韓錢相場(一月廿六日)

現錢　十七割三分

[illegible]

明治卅八年十一月廿四日第三種郵便物認可

朝鮮日報

特別廣告

寄附金募集廣告

我帝國海事協會ニ於テ計畫セル義勇艦隊創設ノ擧ハ帝國現下ノ狀態並ニ將來ニ對シ尤モ必要ナルハ世人ノ共ニ異論ナキ所ニシテ我港ニ於テモ此際應分ノ寄金ヲ致シ此目的ヲ御賛助仕度ト諸君ハ續々寄金ニ同意アラン事ヲ請フ

明治三十八年一月廿五日 委員 有吉明

一、寄附金ハ一口一圓五十錢以上トス
一、寄附金ハ釜山居留地役所ニ於テ取扱フ
一、寄附金ハ別ニ領收書ヲ出サス朝鮮日報朝鮮時報毎日新聞ノ廣告ヲ以テ之レニ代フ

社告

本紙發刊日尚淺く不慣に付種々不都合の廉も可有之候間若し配達漏れの向も有之候はゞ御一報被下度候右御願申上候左すれば特に別配達を以て御送可致候也

本紙定價の儀は一ヶ月金參拾錢

に有之遠隔の地へは別に郵稅金十三錢を頂戴可仕候

明治卅八年一月廿八日 朝鮮日報社

小說

露探狩り 黒潮

(四) (土藏破り)

『僕はどうも別莊に倉庫があるのが不思議だと思つたが、會長の推理によると成程奴等が何の秘密を持つてゐる爲に殊更に作つたものかも知れない、又以前からそれ丈の目論見が無いにしても土藏があるのを利用して以て或る秘密目的に使用するのは當然だ、すると西山の奴の本宅の方で手島が捕まつたとして、どうして道の尾迄連れて行つたらう』

『そりや君、どうにでも出來らあな、荷物の中にでも納つて滊車に乘つけて行けば雜作は無いさ』

『うむ、そうしたかも知れない、何しろ我々は會長の命令だからあの方面の探險をするさ』

『時に會長は何處に行つたらう』

『武雄さ、元のレコが杵島の爺に受出されて東京から來るので今晩あたり武雄まで來ると云ふ情報があつたのらな』

『もう時に何時だらう』

『オット待つた……誰か來るよ』

道の尾書齋園の西の方山を擦つたる一構への別莊はまだ新築した計りにて人住りとも見へざりしが今朝より主人らしき紳士の書生下女なぞ車幾輛かの荷物と共に入込みつゝ、主人の友らしき紳士も幾人か出入せるが、夕刻になりて主人の何處へか出行きたる後は門を閉ぢ雨戸を鎖して雌勝手口の方にのみ微かの燈火を見る計りなりしもそれも夜更けて雪げの空に寒月の光寂しくなりゆきて風さへ吹かぬ靜けさに折々枯枝を渡る夜嵐の雨戸のあたりかたあと、音さするのみ、此處に忍び寄る二人の人影、闇にすかして未だ揃へ充分ならざる杉垣の間より邸内にと入込みつゝ息を凝して物蔭に潜み居るぞ。

土藏の扉僅かに開かれて小さき角燈の火見ゑつ一人の男の出でゆく樣子なり。忍び入りたる二人の男は互に耳を探つて何事をか囁きあいつゝ、一人の方は今しも土藏より出て行く燈火の跡を追ひ一人は土藏の後手より廻りて入口近く伺い寄りつ。

※ ※ ※

土藏の中には前回に記したる痩ぎすの紳士と一人の壯士と共に縛り付けたる手島の前に蠟燭を點して手島が聲の出でざる爲に何事か筆談しけゝあり。

『それでどうしても我黨に加らないのか生命を拾つた上に金になるぢやないか好く考へて御覽』

是は痩ぎすの紳士が手島に書き示したるもの之を見たる手島は頭を振り縛られたる指を動かして筆を求むる樣なり、痩ぎすの紳士は壯士に向ひ。

『解らない奴ぢやな、而し何か書きたいのだらう手を少し弛めてやり玉へ』

壯士は少しく手の縛を解き弛めて筆と紙とを手島の前に指付けたり。

『己は生命は捨てゝかゝつてる、貴樣等の樣な露探に何で同盟するものか、殺せ、殺せ、復讐を探つて與れる人は澤山ある、次に汝貴樣等皆殺しだ、只殘念なは己が杵島の露探であるとの證據を握つてゐるのを報告する途がない事だ、殺すなら勝手にせい』

壯士は筆を採つて。

『貴樣が殺された事が世間に知れるものか貴樣獨く考へて見ろ犬死ぢやぞ』

壯士は痩ぎすの紳士と顏見合せ、何事をか相談せんとす、此時稍自由になりたる手島の手は己が帶の間に挾みたる時計の鎖としきりに……二人は是に氣附かぬ樣子なりき。

◎女醫淺海琴子を訪ふ 一記者

▲これは宜くお稼くだいました、サア手狹いどもお通りなさいまし何うかお上りください、さあ何うか此方へ……

▲ハイ、未だ此方へ參りましてからは間がございませんので一向何の調べをも致しませんの其れから御話しいたす事もございませんの

▲此の韓國には書生の時代から行度い〳〵と思ふて居りましたがいろ〳〵の事情がございまして遂々遲くなつて仕舞いました、事情を申せば學校に居ります中に兩親と兄とに永別ましたので親戚で仲々渡韓させませんのでした

▲一体妾の渡韓いたした目的と申すのは日本の婦人達やお小兒方の施療救濟に當るのではございませんで韓人に對する目的でございましたので最初大邱邊に參る積りでございましたが其の折は未だ京釜鐵道も開通まて居りませんでした爲めに荷物道具なぞを運搬する事や且つは道路徒歩等といふ事から此處に落着きましたのですよ

▲韓人は御承知の如く藥がよく利ますから信用は直ぐ得られます、最も一般に韓の少女なぞは外にも出さぬ習慣でございますから多少の困難はございますが男子の醫者よりは接近し易いでございます、而かし未だ韓人の高貴方にも近親がないので困ります

▲追々戰爭でも終極ましたなら清國の方にも這入たく想ふて居ります清韓兩國共醫術の如きは全く無いといふてもよい位ですから之等の民を救濟發せしむるはわたくしの天職と思ひます、本國杯は最もお醫者が澤山でございますから妾の樣な無資本者は却て此方へ參るがまあよいのです(つゞく)

●理髪業者の美擧

當釜山の理髪業一同が種々協議の結果出征の陸海軍に微衷を注いで恤兵部へ獻金する事に確定したとの事であるから其趣向を聞いて見ると實に感ずべき事であるから左に其方法を紹介して當釜山港の有志家に彼等が美擧に贊助あらん事を望むのである蓋し當釜山港日本人の内情を覗くと公共心の乏しい點實に喫驚する程である然るに彼等理髪業者は所謂男髪結でありながら此の公共心を有し其微力を振るつて恤兵部に獻金せうと云ふのは實に賞せねばならぬおとであるそこで彼等がなす事は今度が一回かと思へは已に昨年の二月に同業者拾三戸擧て其の力にをよぶ丈け献金をしたといふ事を聞く例で之れ感服の譯ではないか誰も日本臣民として日露戰役今回の如き破天荒の事を知らない者はあるまい否な知つても知らぬ振りして居るのが頗に陣る然るに彼等理髪業者の爲す處は之れ眞に本國民の赤心から出でた美擧であるから之に贊同する有志諸者は亦た是れ紙上に筆を盃へん譯である

◎色と慾(つゞき)

實にや羞花閉月の美は國を傾く是は醜女の美さ雖凡夫の八公には魂を溶かすに足りぬべし諸はどうやら縺りて積る痴話は閨の中幾度に行なんと手を執れば胸に打渡み寄する波リツト目と目を見交して互に鬱然打連れ立巫山の夢や跡寂然玉山崩れて嬌態影や濃かなん

斯くて玉川は思ふ盜大枚二圓の金を受取りて時衣の垢色を濯かんと洗濯屋へ送りしが二圓の金は承知せず獨りニツコリ思うやう是さへあれば『チヨイトお酒は何升買へるかしらん並酒一升四十錢二升で八十錢四升で一圓六十錢で五升は二圓オヤマア五升買へるかしらん』ボントに是は幾性な事よだへ〳〵夢中になり早速仲ぜんを走らせて若もなく開けたる此方は洗濯やは急ぎの事とて折角奇麗に濯ぎ上げ叮寧に許に持たし遣れば今更の如うに胸ドツキリ抜に御酒になつたども言譯甚なくねば困つた時の八公文章でまー〳〵とどんと一金二貫文何ご書やら耻を書く情を込めて言ひやれば流石の八公も歎腑め顔あれ羅堅く言ひ置たるに吞で代辨ふとは人を呑だ仕方のシそんなら已に覺悟あると言交したる起證の片身書は囃て嫉むしい褶子の帶も今は廢れて悲しい纐珍の帶ソツト質屋に藏入して洗濯料を渡してやりぬ戀も斯ては可笑しき者ぞも戀初めの其時よりぞ慾は第一酒は次色は三番と極てるもの誰れかあんな職人なぞに苦勞辛氣してたまる者かと打て變りし愛想盡し預て置た女帶サ返してれ與さ日毎の催促八公も負ぬ氣になり今迄貢だ金を整へよサなくば何んでも返さぬと勵つた悶ため擧句の果は泥棒盜人の口迄なく何れお上のお裁判と夜叉の如き惡玉川は色男の八公を無理に引立てドウカ御除説をと騒出しに是には警官も閉口し六間ど駒を撒ぢ起して粹だや〳〵勝手にせい(了)

花柳街の近狀(其の二)

▲先達は料理屋の數や藝者の事を揭げたから今日は一つ稅金の事を書いて見やう

▲館内藝妓や特別藝者乃至女中や酌婦なぞといふと一日に彼等は國家の害毒であるぞかパチルスであるとか大層な事をいふて排斥してあるか全く夫んな事も言はれぬ事もあるテ

▲先づ釜山の現況を見給へ大部分の景氣は紅燈綠酒の扶で飾られてあるではないか斷已ならず釜山の地を維持する稅金は大部分を料理屋御茶屋藝者酌婦の徒に辨せられてあるではないか何ぞかか何だかいふのも勿体ない程である

▲然ないふと疑ふ讀者が在らば限らぬからザツト下に大略を示して見やう料理屋飲食店は昨年度一千九百二圓で定席遊藝場興業俳優遊藝師匠遊藝稼人なぞ九百七拾圓五拾錢夫れに藝者の稅金を加へると乾驚したまう程な實に七千五百九拾六圓以上である其外仲居が三百六拾六圓といふ計算だ

▲一体全体釜山の稅金は總計幾許かといふど經常費四萬圓と僅かである之を以て以上の御茶屋と藝者の稅と比較すると四萬圓に對する一万一千圓を四分の一以上三分の一に當るのではないかナンと鎌い者である

▲是を一家でいふと御神さんが飯酒其宜しきを得る故に山の神の尊稱があるとすると全町の經濟の大部分を負擔する茶屋料理屋は御茶屋様とか御料理屋様とか言はねばならぬまいかして藝妓や酌婦や仲居は藝者大權現酌婦大明神仲居大菩薩の尊稱は普通當然勿論無論位の事だらうと思ふ乞ふ我より初めん哉で失敬せぬのは固より途中で逢ても敬禮位はする積りである

●電氣燈の開業

閉口お醫者のお蔭にて秘藏の藝妓共が赤偽をおひし爲め已むなく休職中なりし當港佐須土原なる電氣燈は面々の手偽も漸く全治したるを以て又々突貫隊を組織し明日より開業の筈にて準備をさ〳〵怠らずといふ

◎昨今の天氣 雨の少なき朝鮮も昨日今日は時に徐々と降り或ひは横さまに顏を撫づる冷たさ夫れ丈一昨日より風さへ劇しくて昨日の午前拾一時頃までは嵐といひ度い樣なりされば同刻頃まては大通りでさへ店を開け置くは稀れにして何れも纐がと爲し楽凉々々といふ騒ぎはせねど何れの家々も逕つて寂然せりされば西町、幸町、北濱通は勿論韓人町の如きは人通皆無といふ景を呈したりされど午前拾一時頃よりは雨も已み各戸店戸を開くに急はしく夜に入りてはせんさいやうどん賣の客を呼ぶ聲もいと勇ましく佐須土原附近の小料理店其他韓内の料理店は相應に客種ありし模樣なりき

私設掲示臺

◎遺失もの ◎拾得もの ◎其外何んなりと

◎金一圓 幸町一丁目二十三番地山口彌男は一昨日午後三時頃幸町二丁目に於て第一銀行兌換券一枚を拾得せり

◎首卷一本 本町三丁目十七番地藤井威太郎方山崎安太郎は再昨日午後八時頃北濱町に於て男物首卷一個を拾得

●鍛冶屋町と瓦斯燈 鍛冶屋町附近には瓦斯燈皆無と云有樣にて夜間れ不便少なからず廣告を利用せる瓦斯燈を樹てる商家あらんおさを望む(通行人)

〇辻便所の增設 各町を通じて辻便所といふ不足なる爲め所嫌を問はず立小便所といふ觀あり風紀上衛生上一日も看過すべきとにあらず當路者の一考を望む(兩便生)

◎道路修繕 佐須土原に通ずる街路は頗る不規則よして又頗る惡路なり還は宜しく修繕すべしといふ人あり(白文公)

魚市場 (廿六日)

一金二百九十四圓六十三錢		水揚高
たい	拾貫目	三十二圓
さわら	同	三十三圓
あわび		
ぼら		
ひらめ	同	拾圓
ぶり		